

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回社会教育委員会議
開催日時	令和6年2月29日(木)午後2時00分から午後3時55分まで
開催場所	戸田市役所 3階 教育委員室
委員長等氏名	社会教育委員会議 委員長 宮地 孝宜
出席者氏名 (委員)	宮地孝宜、佐藤勝巳、板橋哲、島宗徹、片岡昭博、渡部淳子、稲垣茂、須田真司、加藤ちあき、熊木保衛
欠席者氏名 (委員)	高松麗子、中本剛
事務局	鎌田課長、冨田主幹、小室主事、向後主事補
説明のため 出席した者	なし
議 事	(1) 令和6年度講座実施計画(案)について (2) 「学習の記録」の活用について (3) 戸田市民大学講座の登録要件の明確化について (4) 戸田市民大学の利用促進に向けて(意見交換) (5) 社会教育関係団体補助金の適正な運用について(報告) (6) 第76回優良公民館表彰(美笹公民館)について(報告)
会議結果	別紙のとおり
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	・ 議題1資料、資料1-1～1-8 ・ 議題2資料 ・ 議題3資料、資料3-1 ・ 議題4資料、資料4-1 ・ 報告1資料 ・ 報告2資料、優良公民館表彰資料
議事録確定	令和6年3月8日 社会教育委員会議 委員長 宮地 孝宜

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	午後 2 時 0 0 分 事前配布資料の確認。 次第 1 開会 会議資料の確認。 次第 2 宮地委員長から開会の挨拶を頂戴する。 (委員長あいさつ)
事務局	次第 3 議事に入る。 議事の進行については、「戸田市社会教育委員の会議に関する規則」第 3 条第 3 項に基づき、委員長にお願いする。 ※議事に入る前に傍聴人はいない旨報告。
委員長	資料に基づき議題 1 について、事務局から説明願いたい。
事務局	議題 1 令和 6 年度講座実施計画 (案) について 概要：令和 5 年度の取組の成果と課題について説明した後、令和 6 年度の講座計画について説明。
委員長	議題 1 について、意見・質問等あるか。
委員長	到達目標を明確化したという点について、具体的に説明いただきたい。 具体的な指標などがあるのか。
事務局	到達目標については、資料 1 - 2 の講座計画 (案) の中で、「学習者の到達目標」として示している。講座をとおして学習者がどのような学びを得られるかを明確化したうえで講座を計画し、講座後のアンケートで受講者が学んだことや理解度を把握している。
委員長	評価の観点においても、到達目標の設定は重要である。到達目標が評価の基準にもなる。学習者にとっての学習の目安にもなるので、到達目標を精緻化し、学習者にも伝わるよう示せると良いのではないか。
委員	講座後のアンケートの結果や評判はどのようになっているか。

事務局	アンケートの満足度はどの講座も概ね80%前後である。賛否両論がわかる講座もあるものの、幅広い分野の学びを提供できているからこそであると認識している。
委員	美笹公民館の講座計画にある「人生100年時代を乗り切るライフプランニング」の具体的な講座内容について伺いたい。
事務局	詳細はこれから検討していく。
委員	小学校でも総合的な学習の時間で保険会社と連携し授業を実施している。人生100年時代を見通した内容はこれからニーズがあると思う。
委員長	投資などに関してはニーズがありそうか。
事務局	来年度の現代課題講座では金融リテラシーについてもテーマの候補としている。学校の金融教育の取組も参考にしながら検討していきたい。
委員長	企業と連携し、充実した講座を検討して行ってほしい。
委員	大学連携講座の参加者の年齢層は。
事務局	60代から70代が多いが、テーマによっては20代から30代の方も参加している。
委員長	大学の公開講座の情報も整理して市民に紹介していけると良い。 他に意見・質問・感想等あるか。 (意見及び質問なし) 議題1については、事務局の提案のとおり承認する。 続いて、資料に基づき議題2について事務局から説明願いたい。
事務局	議題2 「学習の記録」の活用について 概要：試行期間に実施したアンケートの結果報告及び改良した「学習の記録」の今後の活用方針について説明。

委員長	議題2について、意見・質問・感想等あるか。
委員	アンケート結果の「紙での管理がなじまない」という意味合いをどのように捉えているか。
事務局	普段スマホやタブレットで学習内容を記録している方であると考えられる。
委員	受講者は高齢の方だけではないということか。
事務局	主な年齢層は高齢者層だが、若年層も一部いる。
委員長	利用者の声を速やかに反映できた点はよかったと思う。 年齢によってはwebを使った管理がなじみやすいだろうが、市町のレベルでは難しく、国や県が主体となって推進していくと良い。 学習の記録を今後いかに有効活用していけるかがポイントである。将来的にwebを使った管理の可能性について検討していけると良い。
副委員長	学習者の到達目標を資料や「学習の記録」に記すことができると良いのではないか。目標を意識して学ぶことにつながると思う。
事務局	受講者に目標を意識してもらえよう、検討していきたい。
委員	到達目標や振り返りがアンケートと融合していくと、成果と課題の把握につながるのではないか。自身が教員をしていた際は、気づいたこと・考えたこと・深まったことを子どもたちに記入してもらっていた。そういった考えを深めるような言葉が大切であると思う。
事務局	より考えを深められるようなキーワードを盛り込んでいけるよう検討していきたい。
委員長	利用者に許可を得て学習記録をコピーさせてもらうのも良いのではないか。

委員	小学校のeポートフォリオは、写真に撮ってPDF化し、個人のデータを蓄積している。本人の学習記録を、許可を得てPDF化すると、アンケート機能とポートフォリオ化を兼ねることができるのではないかと。
委員長	他に質問や意見はあるか。 (意見及び質問なし) 議題2については、事務局の提案のとおり承認する。 続いて、資料に基づき議題3について事務局から説明願いたい。
事務局	議題3 戸田市民大学講座の登録要件の明確化について 概要：令和6年度からの市民大学の登録要件について説明。
委員長	議題3について、意見・質問はあるか。
委員長	各課は市民大学に積極的にエントリーしているのか。
事務局	生涯学習課以外で市民大学に講座登録をしている課は3つ程度と少なく、制度や運営を煩雑なものと捉えられている傾向がある。また、市役所職員でも市民大学について知らない人が多いように感じる。
委員長	庁内の運営委員会のようなものはあるのか。
事務局	以前はあったが現在は廃止されている。
委員長	役所の中でも積極的に情報発信し、福祉や環境等、様々な取り組みを実施している各課と連携して進めていけると良いと思う。 市民大学では健康や運動に関することもとりあげられているが、スポーツの観点から何かご意見はあるか。
委員	ヨガなどは健康づくりにつながると思うので参加してみたいと思う。近くの公民館に行ってみたい。
委員長	要件の中に、「学習の要素があるもの」と書いてあるが、すべての活動が学びに結び付いているので、あえて書かなくても良いのではないかと。

委員	最終的な登録要件は。
事務局	資料中の表に示した分野の趣旨に当てはまるものを要件とする。
委員	要件は、内容だけではなく、時間や規模感、受講者層なども含まれてくるのではないかと。学校でも、保護者や地域住民も参加対象にした外部講師の授業などを実施している。もっと地域の人にも聞いてもらえたらと思った。要件を具体化し整理してもらえると、学校も参入の可能性はある。
事務局	これまでは学校からの登録は想定していなかったが、随時登録もできるので、学校でも登録は可能である。今後は、市民大学を登録することによるメリットを周知していきたい。
委員	学校で外部講師が行う授業について、中学校でも市民に開放していければと思う。
委員長	公民館と連携し、公民館でも学校の講座をPRできると良い。 要件を整理するとNPOや企業でも社会貢献として行う取組を市民大学に登録しやすくなると思うので、連携も視野にいれながら検討していけると良いのではないかと。 議題3については、事務局の提案のとおり承認する。 続いて、議題4について、事務局より説明願いたい。
事務局	議題4 戸田市民大学の利用促進に向けて 概要：「戸田市民大学をより気軽に利用してもらえるようにするためのアイデア」、「より魅力的な修了特典に関するアイデア」について、意見交換を行う。
委員長	重要なテーマであるため、一人ずつ意見を伺いたい。
副委員長	当初は、各公民館等でそれぞれ実施していた講座を体系化したいというところから、市民大学は始まった。他市の市民大学を見ると受講のハードル

	<p>が高いが、戸田は講座ごとに参加できて申込しやすいのが良いと思う。市民大学として学びたいという人はどれくらいいるのか、統計はとっているか。市民大学の講座だから受講しているのか、内容に興味があつて受講しているのか。市民大学のどこに魅力を感じているのかを把握できると良い。市民大学の修了を目指している人がどれくらいいるのかを把握する必要がある。戸田にちなんだ愛称をつけるのも良いのではないか。愛称を全面に出し、(戸田市民大学) とするのも一つの在り方ではないか。より身近なもので特典を考えると良いかもしれない。</p>
委員	<p>大学聴講補助制度は限定的な気がする。TODA PAY やイベント参加の優待券、とだみちゃんの着ぐるみが着られるなど、身近な内容のものだと人を集めることができるのではないかと思う。</p>
委員	<p>特別支援の観点からは難しいと思いながら話を聞かせていただいた。特別支援学校では、市内企業と連携して作った製品をネット販売したり、パンを作って販売したりしている。修了証関連で何か役に立てることがあれば、障害のある方について知っていただく機会にもなると思うので、機会があれば協力したい。</p>
委員	<p>受講者 ID を整理すると良いのではないか。サイト上で講座を検索したり、そこで学習履歴を残したりできると、間口が広がっていくのではないか。</p>
委員	<p>ネーミングがハードル高く感じる。若年層は私生活も忙しい。本当はやってみたくても、少しハードルが高いのではないか。愛称や横文字などで親しみやすい名称にすると若者には伝わりやすい。</p> <p>申込も QR コード付きにすることで、ハードルが下がるのではないか。リンク先にも、昨年度の講座の紹介動画や、講座内容の紹介文が掲載されているとより分かりやすい。</p> <p>ビギナーの方が参加しやすくなるよう、1 回目の参加のハードルを下げるような特典が望ましい。</p>
事務局	<p>60代～70代の人たちが会社をリタイアするタイミングで市民大学について周知できると良いと思う。</p> <p>特典については、図書カードなどすぐに使えるもの、学習に使えるものが</p>

	<p>良い。大学の聴講特典は残しておいてもいいと思うが、今の制度だと大学でしか使えない。民間の講座などでも使えるよう広げていくのも良いと思う。</p>
事務局	<p>若年層の割合が少ない。若年層が参加しやすい講座がもっと増えれば市民大学制度について周知できると思う。</p>
事務局	<p>若年層が受講している様子がわかると、同世代の人もより受講しやすくなると思う。初めて講座を受講する人にとっては、4 5 単位分の講座を受けるのはハードルが高く感じられると思うので、中間地点でも特典を設けると良い。また、若い世代は資格の取得に興味を持っている人も多いと思うので、その際の費用の補助もあると良いのではないかな。</p>
事務局	<p>世代別に魅力的な講座を企画していきたい。聴講制度はさらに深い学びを目指す人にとっては魅力的だが、ビギナーや若い世代にはハードルが高いと思うので、世代ごとに選べる特典なども工夫して考えていきたい。</p>
委員	<p>子どもたち向けにスポーツを教える講座等をとおして、スポーツ人口を増やしていきたい。</p>
委員	<p>市民大学の周知用のチラシを数多く配ると良いと思う。四半期に1回でもいいので、広報や新聞の広告に掲載し、市民大学そのものを知ってもらうために工夫すると良い。裏面も活用し、今年度新たに取り組んだ講座の紹介などを入れていくといいのではないかな。</p>
委員	<p>「市民大学」を初めて見た時に、自分には縁がないと思った。ネーミングがハードル高く感じる。他にもそう感じる人がいると思うので、愛称のアイデアはとても良い。市民大学周知用のチラシでは、実際に何ができるのか具体的なことがわかりづらい。カリキュラム予定表にリンクするQRコードもあると、冊子が手元になくてもすぐに確認することができる。ネットで申込ができると参加のハードルが下がるのではないかな。具体的な講座がわかると良い。写真も、若年層の方が参加しているものがあると良い。修了特典はもう少し身近なものが良い。途中経過の特典でボールペンなどがあるだけでも達成感があると思う。</p>

委員	市民大学周知用チラシの写真を、若い人に伝わるようなものにしたほうが良いと思う。シルバー会員116名にとつたアンケートで、参加の動機は生きがいくりと答えた人が50名であった。また、シルバー活動の楽しみについて尋ねたところ、「学びの場」、「健康維持」、「チャレンジしたい」などの感想があり、年をとつても学びたい人はたくさんいることがわかつた。
委員長	申込方法を多様にし、無理のない範囲でDX化を進めていくことも今後の課題かと思われる。 修了特典は役所の中でできる範囲内で検討してほしい。 チラシについては写真を変えたり、学び直しだけではなく幅広い世代の方に伝わるよう「新しい学び」などの言葉も良いのではないか。 他に何か意見等あるか。
委員長	役所ではスマホに広告を出したりしているのか。
事務局	web 広告をやつた事例はある。イベントの実行委員会でターゲット広告をやつた事例もある。
委員長	周知方法を多様化し、予算の範囲内で工夫していけると良いと思う。 続いて報告に移る。資料に基づき報告1について、事務局から説明願いたい。
事務局	報告1：社会教育関係団体補助金の適正な運用について 概要：今年度行つた取組（交付実績の確認、PTA 会長への意見聴取、近隣市の状況調査）及び今後の取組について報告。
委員	国や県のPTA 組織から脱退しているという話も全国的に聞く。補助金の適正な運用が難しい背景には上部組織との関連もあるとのことだが、市の方で方向性があれば聞きたい。
事務局	国や県の上部組織への加入は任意となっているが、補助金の交付について

委員長	<p>はこれまで見直されてこなかった。今後意見交換を通じて、子どもたちのためという視点で適正化に向けて動いていければと考えている。</p> <p>子どもたちのためという視点を一つの柱としていってほしいと思う。資料中の4 今後の取組では、「必要に応じ」ではなく「求めに応じ」の表現がより適切であると思う。</p> <p>続いて、資料に基づき議題2について、事務局から説明願いたい。</p>
事務局	<p>報告2：第76回優良公民館表彰（美笹公民館）について 概要：優良公民館表彰を受賞した美笹公民館の取組について報告。</p>
副委員長	<p>オンラインで講座をやる場合は著作権の問題をクリアするのが難しい。今後は市として権利関係の整理をし、使える資料と使えない資料を提示してもらえると助かる。</p>
委員長	<p>学校ではサートラスを使っていると思うが社会教育施設ではどうか。</p>
事務局	<p>公民館は学校のような基準に沿って安価にできるが、生涯学習課主催のものは費用も高くなっている。オンデマンド配信は障害のある方も自宅で学べるなどの利点もあるので市としては推進していきたいが、課題も多いので今後も検討していきたい。</p>
委員長	<p>本日の全ての議事が終了したので、進行を事務局へお返しする。</p>
事務局	<p>6 閉会 次回の会議は7月を予定している。 以上で令和5年度第2回戸田市社会教育委員会議を終了する。 閉会／午後3時55分</p>